



# くすり博物館だより

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館 〒501-6195 岐阜県羽島郡川島町竹早町1

Tel: 058689-2101 Fax: 058689-2197 <http://www.eisai.co.jp/museum/>

## 企画展

### 女・子ども・男のくすり

今回の企画展では江戸～明治時代の薬を、女性用・子ども用・男性用に分けて紹介しています。そこで来館者の皆様に展示の印象についてアンケートをお願いしたところ、9月までに128名の方がご提出くださいました。厚くお礼申し上げます。その中で、「面白かった・興味を持った」と回答をいただいた展示コーナーの第1位は「女のくすり」でした。いわゆる婦人病は、昔も今も生理や妊娠、出産など女性の身体と密接にかかわる病気だけに、皆様の関心が高かったようです。

第2位は少しの差で「乳がん」のコーナーでした。昔は乳がんの適切な治療方法がありませんでしたが、今では検診を受けたり、自分で触診して早期発見・早期治療を目指す病気になったため、女性の方の関心が高く、2位となりました。

そのほかにご覧いただいた方の関心が意外と高かったのは「身体観」のコーナーでした。このコーナーには「内景之図」<sup>けいらく</sup>「経絡人形」<sup>やまいのそうし</sup>「疾草子」を展示し、昔の人が人間の身体をどのように考えていたかを紹介しています。身体観を知ることにより当時の薬について理解を深めることができるのではないかと考え、このコーナーを設けました。地味な展示資料ではありますが、注目していただきうれしく思います。

「こどものくすり」「天然痘と麻疹」「男のくすり」「化粧」「梅毒」などはそれぞれ同じくらいの人気でした。また、こどもの病気と薬の展示にちなみ、子ども用に展示についてのクイズコーナーを設けましたが、世代を問わず人気がありました。

『くすり博物館だより』や図録でも企画展の内容はわかりますが、会場にお越しいただき、直接資料を見てクイズなども楽しんでいただけたら幸いです。

※アンケート中の複数回答はそれぞれ1点でカウントしました。



▲企画展会場では、来館者の皆様がそれぞれ自分の興味のあるコーナーをじっくりご覧になる姿が多く見られました。

下段の写真の左手に見えるのがクイズコーナーです。3つの答えから正解を選ぶスタイルで、問題板をめくると正解が書いてあります。会場の資料がヒントになっていますので、もう一度資料を見に戻る人もいました。





◀ 絡人形  
江戸時代/  
<86×26×12>

## 身体観

日本では、人間の身体の内部を探るための解剖は、江戸時代後期まで死者を冒とくすると考えられ、行われませんでした。しかし、身体の仕組みについては関心が高く、漢方医学の五臓六腑観の考え方に基づいた「内景之図」が描かれたり、「気」の循環路である「経絡」を示した「絡人形」が作られ、医薬の研究に用いられました。

内景之図 ▶  
江戸時代  
<55×32>  
岡本一抱\*作  
とされる。

\*岡本一抱は17世紀の医師で、近松門左衛門の弟。口語による優れた医書を多く著わした。



## 乳がんと華岡青洲



▲ 華岡流手術図  
江戸時代<20×660>  
華岡塾の塾生が書き写した絵図。乳がんの手術の進行に沿って描かれています。



▲ 華岡青洲肖像 (複製)  
<67×38>

華岡青洲は、漢方医学と蘭方医学の両方を修めた医師で、文化4年(1804)全身麻酔剤を用いて、乳がん切除の手術をしました。この手術が行われるまでは、がんによる痛みをやわらげるような治療法がなく、この手術は大変画期的なものでした。ただ、難しい手術だったため、この恩恵を受けることができたのはごく一部でした。

## 婦人薬の生薬

当帰



セリ科のトウキの根。浄血・鎮静・強壯作用があります。

芍薬



ボタン科のシャクヤクの根。鎮痙・鎮静作用があります。

牡丹



ボタン科のボタンの根皮。消炎・止血・鎮痛作用があります。

## 月経・妊娠・出産



◀ 神應丸  
明治時代/埼玉/幾瀬孝一<97×30>



▲ 子かへしする人の図  
国明画/文久2年(1862)  
<38×25>  
こどもを養っていて貧乏な家庭には支援があると説明しています。

「女のくすり」には、婦人病の治療薬以外に、お乳が早く出るようになる薬などいろいろありました。江戸時代にはもちろん粉ミルクなどはないため、お乳がでない、近所の乳のみ児を持つ人にもらい乳をしなければならず、大変なことでした。

また、こどもができてしまって困った人は、通経薬を堕胎薬代わりに使ったり、刺激物を食べておろそうとしたこともあったようです。「子かへしする人の図」では、子殺しをいさめています。

絵馬「乳」▶  
<17×23>

乳が出るようにと祈願する絵馬。ほとぼしるほど出てほしいという母親の願いが表われています。







▲セメンシイナ丸

江戸時代／大阪／大神<70×24>  
セメンシイナはキク科セメンシナのつぼみを乾燥させたもので、回虫駆除剤とします。寄生虫だけでなく、夜泣きや疳の虫にも効果があると思われていました。

虫のくすり

神経過敏により乳児が夜泣きや引きつけをしたり、乳を吐く症状を「疳の虫」といいます。これは、当時病気の原因がわからなかったため、虫が原因で起こると説明されてきたようです。また、寄生虫症も虫が原因とされ、これらの虫を体外に出す薬は「むしおさえ」「むし下し」と呼ばれました。



赤蛙丸[左] ▲

京都・田部重兵衛 <24×34>

蛙が疳の虫に薬を投げつけて退治しようとしているユーモラスな絵柄の広告です。

孫太郎虫[中] ▼

<8×12×4>

孫太郎虫はヘビトンボの幼虫をゆでて串にさして乾燥させたもので、疳の虫の薬です。宮城県の名産。

赤蛙屋[右] ▶

<22×15>

民間薬として疳の虫に赤蛙を用いました。江戸～明治時代には蛙を売る行商人が籠に入れて売り歩きました。

企画展担当 稲垣裕美

< >内は資料のサイズ。単位はcm。

薬草園から

当園温室の片隅に、樹令十数年、高さ約2.5mで、幹の太さは地面に近いところで約4cmの樹木が植えられています。この植物はアラビア半島南東部原産のカンラン科ニューコウジュ (*Boswellia carterii*) で、乳香樹と書きます。その樹脂が固まったものを乳香と言います。英語名はフランキンセンス、またはオリバナムとも呼びます。ウルシ科のピスタキアから採取される樹脂も乳香（中国では洋乳香と称し、英語ではマスティク）と呼ばれています。

乳香はわが国ではなじみがない植物ですが、インド以西のキリスト教・ユダヤ教・イスラム教の宗教的儀式に乳香は重要な薫香料とされてきました。古代エジプトでは没薬ミルラとともにミイラづくりに使われた薬剤であり、医薬品でもありました。

また、中国の本草書の古典である「本草綱目」(李時珍; 1590) 木部第34巻にも、香木類35種の中に「薫陸香・乳香」の項があります。同書では薫陸香も乳香と同じであると書かれています。産地は天竺(インド)、波斯(ペルシ

ヤ)、大秦國(地中海沿岸ローマ領)、大食國(アラビア)など西方各地域との記載があります。各地で採取された乳香がシルクロードや海路を経て、中国に持込まれていたことがうかがえます。古くは鎮痛・排膿・止血薬とされ、そのほか膏薬の原料や宗教上の儀式の薫香料としても用いられたようです。

では、この乳香は一体どんな香りがするのでしょうか。「市場に販売される乳香は(中略)エンドウ豆ほどの大きさで、炭火上で熱すると著しく芳香を放つ」と本に書かれていましたので、まず炭火をおこし、アルミホイルに乗せた乳香を置いてみましたが、あまり煙が上がりません。そこで、直接炭火に置いたところ、白い煙が出て少しずつ強いにおいが部屋中に広がってきました。

当館の職員や薬草説明会参加者の方に、このにおいをかいで表現してもらったところ、「初め鼻にツーンとくる甘酸っぱい香り」がしたとか、「松脂のにおい」や「ジュニパー(ネズ)のにおい」がしたという人もいました。「高貴な

めずらしい植物～乳香樹～

香り”で“いつまでも残るにおい”と表現した人もいました。

これは当館で採取した乳香のにおいの感想です。このほかに中島路可氏よりご寄贈いただいたイスラエル産とトルコ産の乳香も焚いてみたところ、当館の乳香より強く甘いにおいで、産地によって微妙ににおいが違うこともわかりました。

西アジアの樹木から取った香を焚いたということで『千夜一夜物語』を思い出し、どこからともなく美しい女性が現われるような気がしましたが、どの産地の乳香を焚いてもついに現われませんでした。



薬用植物園 主任 白井英夫

参考文献  
『新註校正国訳 本草綱目』春陽堂書店 1973-78  
『香料植物 ハーブ&スパイス』平凡社 1987



## フォトコンテスト作品展のお知らせ

1999年度に4回開催したフォトコンテストの作品は、「春の部」など部門ごとに最優秀賞・優秀賞・佳作作品を展示してきました。しかし、来館者の皆様からは「他の季節の写真も見たい」という声が寄せられたため、このたび春夏秋冬それぞれの入賞作品を一同に展示し、ごらんいただくことにいたしました。

会期は2000年12月2日(土)～2001年2月11日(日)です。展示作品数は56点です。写し取られたくすり博物館の四季を、ぜひご鑑賞ください。

### ポストカードになりました

フォトコンテストの最優秀賞・優秀賞作品が、四季それぞれのきれいなポストカードになりました。全8種類で、バラ売りでは1枚100円で販売しています。また各1種類8枚セットにしたものは600円とお得になっています。

旅の便りに、近況報告にポストカードはいかがですか？



## TOPICS

### ■日本薬学会参加者の方の見学ツアーがありました

岐阜市で日本薬学会第120年会が開催され、3月29・30日には学会参加者によるくすり博物館の見学ツアーが実施されました。

### ■モダンホスピタルショウで資料を展示しました



7月12～14日、東京ビッグサイトで開催された医療や看護用具の展示会のオランダコーナーで、西洋風の名前の薬・ウルユスの看板や、華岡青洲の麻酔手術についてのくすり博物館の資料を展示しました。

### ■「心に残っているくすり」のアンケートを行っています

20世紀も残りわずかとなりましたので、ご来館の皆様の心に残っている薬と薬についての印象をアンケート調査しています。ご来館の折にはぜひご記入ください。医薬の面から20世紀を振り返ってみたいと考えています。

### ■2001年にくすり博物館は開館30周年を迎えます

30周年を記念して、当博物館では特別展、記念出版、その他楽しい催事を予定していますので、ご期待ください。

### ■くすり博物館が岐阜県から表彰されました

岐阜県では観光地メイクアップ推進事業の一環として、魅力づくりが継続して3年以上行われており、その成果が顕著であると認められた地域・団体・施設が表彰されています。平成12年度は14件の申請の中から当博物館を含む7件が選ばれました。岐阜県庁で8月7日に行われた表彰式で、館長・三宅が表彰楯を受け取りました。



左：梶原拓岐阜県知事 右：三宅館長

### ■国立歴史民俗博物館でもくすり博物館の図録が買えます

千葉県佐倉市にある国立歴史民俗博物館で、当博物館の図録の一部が購入できるようになりましたので、ご利用ください。

### ■今年も！夏休み親子教室は大人気！

7月29日(土)～30日(日)に開催された親子教室には、計52組144名のご参加がありました。リースとポマダー制作に、親子で協力しながら取り組みました。

### ■くすりクイズ登場！！

くすり博物館の資料や薬草についてもっとよく知っていただけるようにタッチパネル式のクイズを作りました。1問ごとに神農様が正解・不正解を教えてくれて、10問答えると何問正解だったか採点してくれます。10秒以内に答えないとでっち君が時間切れを教えてくれたり、楽しみながらいろいろ覚えられます。ぜひチャレンジしてくださいね。



### 資料図書ご提供者ご芳名

青木葉一 熱田神宮 上田通博  
大瀧武雄 片桐平智  
岐阜保健環境研究所 吉良枝郎  
越前喜紀 胡朝淦 小松良夫  
酒井俊雄 昭和堂 月山恵子  
東京農業大学農業資料室  
徳成憲雄 道修町資料保存会  
富田幸夫 豊橋市医師会  
長野仁 日本新薬 長谷川弥人  
原田裕司 万有製薬 増田健一  
宮崎惇 宮本英樹 村松宣夫  
森永製菓(株) 山川浩司(敬称略)

～ありがとうございました～

館長 三宅康夫 学芸員 稲垣裕美(編集担当) 学芸員・司書 野尻佳与子 伊藤恭子 図書整理 林知子 庶務 森田麻起子  
小島敦子(見学受付) 薬用植物園 主任・学芸員 白井英夫 栽培管理 栗本省三 刈谷辰行 顧問 青木允夫 ｱﾄﾞﾊﾞｲｽ 逸見誠三郎  
内藤記念くすり博物館 開館/9:00～16:00 休館/月曜日・年末年始(12/28～1/8)